

避難訓練

新型コロナウイルス感染症対策では、三密を避けることが必要だとされています。教室では、できる限り席の間隔を空けて学習を行っていますが、全校児童が集う体育館での集会は行っていません。そのため、雨天時の訓練で、体育館への避難を想定することができません。

6月7日は、晴天に恵まれ、地震を想定した外への避難訓練を行いました。訓練用の緊急地震速報を校内放送で流すことから、訓練を始めました。児童は、すぐに机の下で身を守る姿勢と取りました。揺れがおさまると、児童は椅子に座り、安全が確認できるまで待ちます。



「今の地震により校舎の倒壊の恐れがあります。児童の皆さん

避難訓練の心がまえ

「お」 … おさない
「か」 … かけない
「し」 … しゃべらない
「も」 … もどらない
「す」 … すばやく
「き」 … きく

は直ちに校庭に避難しなさい」との放送からの指示で、クラスごとに落ち着いてグラウンドへ避難しました。



避難指示の放送から、全員の避難完了の報告まで4分30秒ほどでした。事前に、避難する際の心構えとして、「お・か・し・も・す・き」を指導していたので、500名近くの

児童が、慌てず静かに迅速に避難することができたのでしよう。

今回の避難訓練では、授業中を想定したので、教員の指示に従えば避難できる安心感があります。災害にいつ見舞われるか分かりません。休み時間などでは、自分で周りの状況を確認して、身を守る行動を取らなければなりません。事前に指導したことを理解して、真剣に訓練に取り組むことで、万が一の備えにつながってきます。



訓練終了後、各教室でワークシートに振り返りを書きました。「いつ、どこで、何が起きるか分からないので、避難訓練は大事だと思う」「地震が起きたら1・2年生に声をかけてあげたい」「机にもぐっているとき、しっかり机のあしを持っていた」などの記述から、訓練に真面目に取り組んだことが伝わってきました。